



学校だより

上越市立下黒川小学校
第13号
平成30年1月26日発行
<http://www.shimokuro.jorne.ed.jp/>



6年生が優しく教えてくれたので上手に跳べるようになりました。

回す人がタイミングよく回してくれたので上手に跳べるようになりました。

最初はうまく跳べなかったけど、背中を押してくれたから跳べるようになりました。

優勝できなかったけど、みんな力を合わせて跳んでいたのが良かったです。楽しかったです。

みんなで大きな声で数を数えながら跳んだから良かったです。回数が増えただけでなく練習を重ねて心班の絆が深まったことが一番嬉しかったです。



心班大縄大会・イキイキ体操フェスティバル

校長 岩下 伸子

《継続は力なり》

毎年実施している『心班大縄大会・イキイキ体操フェスティバル』。まさに『継続は力なり』。大縄では2分間で142回も跳んだ班がありました。マットでは側転や前方宙返りに挑戦する子。跳び箱では台上前転や抱え込み跳びに挑戦する子。低学年でも8段の跳び箱をドンドン跳んでいく子。短縄跳びでは二重跳びや後ろ二重跳び、ハヤブサ跳びに挑戦する子。ダブルダッチに挑戦する子もいます。鉄棒では連続前回りや後ろ回り、両膝かけ振動下りに挑戦する子…と様々。

『イキイキ体操フェスティバル』当日まで、休み時間も苦手な種目の練習に励む子どもたち。上学年の子どもたちの練習の様子を見て、「僕たちもあんな風にカッコよく難しい技に挑戦したい」とがんばる下学年の子どもたち。逆に、下学年の子どもたちのがんばる様子を見て、「私たちが練習をがんばらなきゃ」と張り切る上学年の子どもたち。相乗効果でドンドン上手になっていきます。練習の都度、互いのがんばりを認め合う振り返り活動が次の練習につながりました。

《得意な子も・苦手な子も一生懸命励まし合ってがんばる姿》は、下黒川小学校の良い伝統です。運動以外でも、勉強や掃除や給食、わくわく学習などの活動においても、そうです。

互いに励まし合い、成果を上げていく子どもたち。すごいですね。





各学年の活動(生活科・総合)の紹介



3年「目指せ黒川・下黒川名人!!」

1学期は学校周辺や小野城跡、密蔵院、吟田川、大出口に行ったり、地域の方にお越しいただき、小野城や大出口についてお話をいただいたりしました。特に子どもたちの印象に残っているのは吟田川、大出口探検でした。実際に水を触り冷たさを実感したり、水を飲んで普段の水との違いに驚いたりしていました。いろいろな場所に行くことで、もっと地域のことを詳しく調べてみたいという気持ちが強くなりました。

2学期は、1学期の学習を活かし、新聞を作ったり、文化祭のわくわく発表で学んだことを伝えたりしました。わくわく発表ではどうやったら聞き手に分かりやすく伝えることができるかを考え、試行錯誤しながら練習を重ねました。本番では自信をもって発表することができ、全員で1つのことを成し遂げた達成感を味わっていました。

文化祭後は、米山古道散策に行きました。地域の古道の植物に詳しい方に引率して頂きました。古道の植物や動物についてのクイズを解きながら散策する中で、子どもたちは古道に生えている植物や、動物に興味をもち、手に取ってみたり、質問したりしていました。

3学期は地域のPR動画を作成中です。今まで探検に行った場所、や地域の方に話して頂いたことを振り返り、地域の良さを伝えるためにはどうすればよいかを考えています。子どもたちは「色んな人たちに見てもらいたい!」と完成に向けて突き進んでいます。

(担任 寺岡 嵩智)



5年生「作ろう 食べよう 考えよう ~げんき米をつくろう~」

猿毛の今井昭仁さんからご指導いただき、米作りを体験しました。田んぼは学校のグラウンド脇にあるので、子どもたちは当番を決めて毎日稲の様子を見に行ったり、水の管理を行ったりしました。今年は大雨で休校になった日もあり、翌日は心配した子どもたちが田んぼの様子を真っ先に見に行っていました。米作りに関わる作業は手作業で行いましたが、自分たちの力だけでは作業が進まず、地域のボランティアの方から手伝っていただいたり、機械の力を借りたりしました。

収穫したお米は、文化祭で販売しました。昨年、米販売をした6年生からアドバイスをもらったり、当日とそれまでの役割分担などを話し合ったりしたので、自主的な活動になりました。「たくさんの人に買ってもらいたい」という思いを持ち、当日はお客さんから試食もしていただきながら販売しました。完売したことに子どもたちは大きな喜びを感じていました。

また、ボランティアの方を親子活動に招待し、一緒に収穫祭をしました。新米で作ったおにぎりと豚汁はとてもおいしかったです。米作りの活動を振り返った作文や「米作り五・七・五」の発表、ボランティアの方への感謝の手紙渡しを喜んでいただきました。収穫したお米はまだあるので、3学期は、米粉を使ったクッキングにチャレンジしたり、給食に出してもらって全校のみんなから味わってもらったりする予定です。

(担任 高倉 明日)



6年生「出会おう 学ぼう 成長しよう～おひさまフレンドパワーアップ大作戦」

「地域・人に学ぼう！」をテーマに、地域の人とふれ合いながら、新しい発見をしたり、自分を見つめ直し目標をもったりしています。

○地域の偉人～小林富次郎～

ライオンの創始者「小林富次郎」の菩提寺である光徳寺に行き「堅忍遺慶の碑」を見学し、富次郎の生涯についてのお話を聞きました。富次郎が、忍耐強く何度もの困難を乗り越えたこと、人を大切にする優しく強い人であったことを知りました。その後、修学旅行で東京のライオン本社を訪問し、今も経営の基本や製品に富次郎の心が受け継がれていると感じ、「自分も思いやりのある強い人になりたい」などと目標としていました。

○地域のために～地酒の米作り・黒川黒岩ふれあい祭り～

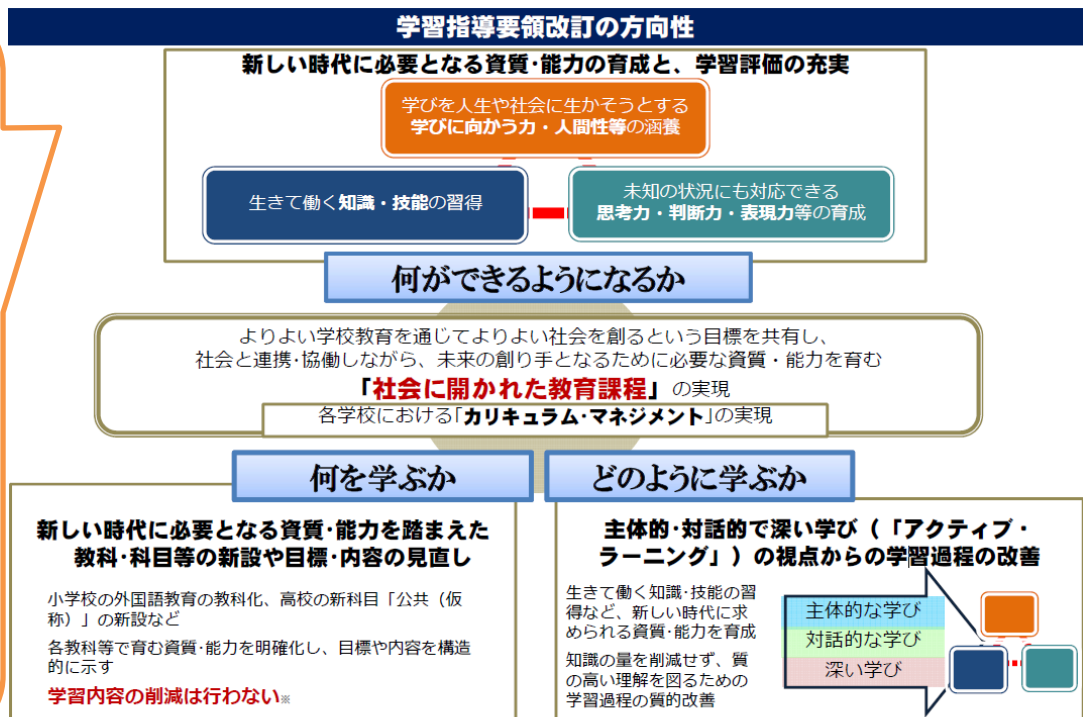
「柿崎を食べる会」の曾田さんや「16ピース」の加藤さんから地域への思いや活動についてのお話を聞き、自分たちも「地域を盛り上げていきたい」との思いをもちました。地酒の酒米の田植えや黒川・黒岩ふれあい祭りに参加し、地域のために頑張る方々の姿に感動したり、「地域の皆さんに喜んでいただき、嬉しかった」と満足感を感じたりすることができました。

「よねやまの里」や「ふれんどり～ミルはまなす」での職場体験を通して「将来に向けて大切なこと」や「働く」ことについても考えることができました。地域の人とのふれ合いを通して、多くのことを学び、中学校や将来に向けてやりたいことや思いがふくらんでいます。

(担任 清水 真理)



右の図は、新学習指導要領改訂の方向性を示したものです。文科省。平成三十二年度から全面実施となる新学習指導要領では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む『社会に開かれた教育課程』の実現」が必要だと示されています。



『何ができるようにするか』『何を学ぶか』『どのように学ぶか』が、これからの《学び》で、重要となってきます。《教科の学習の中で》《全ての教育活動の中で》子どもたちの一つ一つの《学び》を大切にしながら教育活動を展開していかなければなりません。

しかし、学校の力だけでは難しく、保護者の協力や地域・社会の協力なしでは成果が上がりません。《社会に開かれた教育課程の実現》を図り、《共に子どもたちを育てていく》という使命の下、教育活動を展開していくことが大切となると考えます。生活科や総合的な学習の時間を中心とした《わくわく学習》は、まさに保護者・地域・社会と協働で進める学習であると考えます。講師を引き受けてくださっている保護者・地域の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございます。

「校内書き初め会」



1月11日(木)、心を落ち着かせ、体育館も教室もシーンと静まり返った中で83名の子どもたちが書き初めに挑戦しました。緊張しドキドキしながらも、冬休みの練習の成果を発揮し、堂々と自信をもって清書用紙に向かっていました。

「心班対抗大縄大会結果」…優勝はF班！

	A班	B班	C班	D班	E班	F班
1回目(12/11)	51/49	52/59	54/49	40/58	51/48	68/68
2回目(12/15)	63/64	64/44	44/49	54/50	58/52	90/84
3回目(12/19)	85/80	59/62	54/49	59/56	60/59	100/105
4回目(1/12)	59/62	36/32	53/50	55/57	60/55	123/92
5回目(1/16)	81/83	49/46	65/45	78/77	66/64	128/84
本番(1/17)	102/98	60/72	85/90	80/91	69/66	124/142

優勝はF班でした。しかし、どの班もがんばり、全ての班が第1回目の記録より大幅に更新しました。練習すればするほど上手になります。来年は目指せ150回！

《いじめ見逃しゼロ運動》



全国的に『いじめ防止・いじめ見逃しゼロ』運動が展開されています。新潟県においても『いじめ見逃しゼロ県民運動』を実施しています。

しかし、《いじめ》はなくなり、全国的にも、全県的にも、上越市内においてもいじめ事案が報告されています。新潟県いじめ問題対策連絡協議会では、下記のようなメッセージを発信し、取り組んでいます。《いじめ》や《いじめ防止》について、子どもも大人も、家庭も地域も学校も真剣に考えていかなければなりません。大事な子どもたちの未来と命を守るため、地域をあげて《いじめ防止》に取り組んでいきましょう。共通メッセージを紹介します。

＝ 共通メッセージ ＝

- ★《いじめ》は、いじめを受けた児童生徒の心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命または心身に重大な危険を生じさせるおそれがある。
- ★《いじめの問題》は、児童生徒だけの問題ではなく、心豊かで安全・安心な社会をいかにしてつくるかという、県民みんな考えていべき課題である。
- ★新潟県いじめ問題対策連絡協議会では、《いじめ》に悩む児童生徒を救うため、学校、家庭、地域、その他、関係機関が強いネットワークをつくりあげる。
- ★『いじめを決して見逃さない！決して許さない！』『見て見ぬふりはしない！みんなで声を掛け合う！』を合言葉にして、いじめ防止に全力で取り組む。
- ★29年度は「ネットいじめ防止」に焦点を当てた取組を展開し、「いじめ見逃しゼロ」の気運を高めていく。

お詫び……1月25日(木)は、大寒波・悪天候による交通事故等によって大渋滞となり、スクールバスの運行が遅れ、皆様にご迷惑やご心配をおかけしました。雪の中、子どもたちを待たせたり、保護者の皆様から学校まで送っていただいたりしました。ご協力に感謝し、お詫び申し上げます。スクールバスの到着が10分以上遅れた場合は学校までご連絡ください。状況を調べ、折り返し連絡させていただきます。なお、早めにPTAメール等でも配信させていただきたいと思っております。